

がん・生殖医療連携会議

/Oncofertility Consortium JAPAN 2016 Meeting準備会議

平成28年度厚生労働科学研究補助金（がん対策推進総合研究事業）
総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究

H27-がん対策-一般-005

班長：国立名古屋医療センター臨床研究センター長 堀部敬三先生

PART-II 国内のがん・生殖医療連携の現状（2） 埼玉県がん・生殖医療ネットワークについて

高井 泰

埼玉医科大学総合医療センター産婦人科



生殖小班

聖マリアンナ医科大学医学部
岐阜大学大学院医学系研究科
岡山大学大学院保健学研究科
長崎大学医学部付属病院
滋賀医科大学医学部
埼玉医科大学総合医療センター
岐阜大学大学院医学系研究科

- 産婦人科学
- 産科婦人科学分野
- 生殖医学
- 産婦人科、生殖内分泌学
- 産婦人科学
- 産婦人科学
- 産科婦人科学分野

鈴木 直
古井 辰郎
中塚 幹也
北島 道夫
木村 文則
高井 泰
森重健一郎

埼玉県がん・生殖医療ネットワーク(SORNET) 設立経緯(1)

2015年8月7日

「埼玉県がん・生殖医療ネットワーク研究会」世話人会 開催

埼玉医大国際医療センター乳腺腫瘍科・佐伯俊昭教授が発起人となり、

埼玉医大産婦人科・石原理教授(研究会会長)、
同総合医療センター産婦人科・高井他2名が出席

- ・ 埼玉県産婦人科医会とタイアップ
- ・ 県内のARTクリニック、がん治療施設などから運営委員を選定
- ・ 埼玉医大産婦人科に事務局を設置
- ・ 2016年1月30日に研究会準備会開催を決定

埼玉県がん・生殖医療ネットワーク(SORNET) 設立経緯(2)

2016年1月30日

埼玉県がん・生殖医療ネットワーク研究会準備会 開催

- ・ 県内の主要医療施設から20名弱が参加(クローズド)
- ・ 聖マリアンナ医科大学産婦人科・鈴木直教授による特別講演
- ・ 運営委員12名による運営会議
 - ①会則の制定・承認
 - ②運営委員の拡充
 - ③実体確立に向けたワーキンググループ設立
 - ④県内ART実施施設へのアンケート調査(2016年3月)
 - ⑤メーリングリストの開設(2016年3月)

埼玉県がん・生殖医療ネットワーク(SORNET) 設立経緯(3)

2016年5月12日

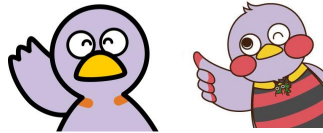
埼玉県がん・生殖医療ネットワーク研究会ワーキンググループ 開催

- ・ 県内の主要医療施設の医師・看護師など11名が参加
- ・ 県内ART実施施設へのアンケート調査結果
- ・ ネットワーク形成の方向性について協議
- ①相談窓口の候補: ネットワーク施設、がん相談窓口、がん診療支援センターなど
- ②妊孕性温存実施施設: 15施設 (/県内全26施設)
- ③県内ニーズの把握: 7-8割が東京へ?
- ④ホームページの立ち上げ: 2016年秋、サーバー、資金など
- ⑤行政の関与: 県疾病対策課へ研究会聴講を打診
- ⑥NPO法人の設立: 資金、手順など
- ・ 第1回埼玉県がん・生殖医療ネットワーク研究会: 2017年2月18日開催、特別講演by古井先生

埼玉県がんサポートハンドブックへの情報提供

患者必携

地域の療養情報



埼玉県のマスコット「コバトン」&「さいたまっち」

埼玉県 がんサポートハンドブック



埼玉県の二次保健医療圏（10か所）

埼玉県保健医療部疾病対策課がん・疾病対策担当



「がんと言われたとき」の章に
妊孕性温存に関する記載を
追加し、
妊孕性温存に関して相談でき
る医療機関のリストを掲載

埼玉県がん・生殖医療ネットワークにおける 生殖医療実施施設の分布状況

石原ら(2016)による

- 卵子・卵巣・受精卵凍結実施
- 卵子・受精卵凍結実施
- 卵子凍結実施予定
- 受精卵凍結まで



2016年1月30日に発足

埼玉県北西部の施設が少なく、地域がん・生殖医療ネットワーク内でも偏在がみられる

ネットワークの運営体制(1)

紹介先の主な施設	複数 埼玉医大総合医療センター産婦人科 など
紹介方法	病診連携(FAX)
がん診療施設からの 統一された情報提供書式	なし
県外からの紹介	まれ
妊孕性温存実施施設	紹介先と同一
ネットワーク運用資金	研究費 など
ネットワークHome Page ・開設資金	なし 研究費 など?

ネットワークの運営体制(2)

妊孕性温存に関する 情報提供内容	医療者の裁量
症例の情報	各施設で管理
施設間の交流方法 (患者紹介以外)	定期的な研究会の開催 メーリングリスト
行政の関与	がん対策部門 がんサポートハンドブックに掲載
ネットワークの特徴	複数同規模施設が連携
ネットワークの課題	複数施設にネットワーク機能が分散 一元的な患者情報の把握が困難 県内の需給バランスが不明 通院・費用負担が困難

がん・生殖医療ネットワークに求められるものは？

これがないと『がん・生殖医療ネットワーク』とは言えない？

1. 分かりやすい相談窓口

圏内のがん診療医・がん患者のほとんどが容易にアクセスできる。

基幹病院、生殖医療実施施設、がん相談支援センター、がん・生殖医療ナビゲータなど

2. がん・生殖医療に関する情報の継続的発信

ホームページ、リーフレット配布、県広報紙への掲載 など

3. 妊孕性温存に関わる医療サービスの提供

心理カウンセリング

妊孕性温存に関わる社会的支援

卵子・精子・受精卵・卵巣などの凍結保存

家族性腫瘍に関する遺伝カウンセリング など

4. 適切なフォローアップ体制

患者の登録システム(妊孕性温存ができなかった患者も登録)

妊娠・出産後や出生児のフォローアップ

5. 適切な施設間の情報共有・交流

研究会の開催、メーリングリスト

一定の情報提供書式(がん→生殖、生殖→がん) など

6. 行政の関与

患者や医療機関への補助金、圏内関連施設への指導 など